

会議録

会議名	令和4年度（2022年度）第1回八王子市まち・ひと・しごと創生総合戦略推進懇談会
開催期間	令和4年（2022年）8月2日（火）～ 8月12日（金）
開催方法	書面開催（新型コロナウイルス感染症拡大防止のため）
参加者 （五十音順、敬称略）	浅野里恵子、荒井富雄、北原裕貴、木崎洋子、小暮茂和 澤昌秀、中庭光彦、星卓志、細谷幸男
議事	1 八王子市まち・ひと・しごと創生総合戦略の令和3年度（2021年度）実績評価について 2 その他
配布資料名	資料1 八王子市まち・ひと・しごと創生総合戦略 令和3年度（2021年度）の実績評価 資料2 令和3年度（2021年度）実績値の分析・評価シート 参考1 八王子市の人口の現状 参考2 デジタル田園都市国家構想基本方針（概要）【国資料】
会議の内容 （主な意見等）	別紙のとおり

1 八王子市まち・ひと・しごと創生総合戦略 令和3年度(2021年度)の実績評価について

○ 政策軸1「ひとづくり」

NO.3 子どもたちに対し適切に教育できる環境となっていると感じている保護者の割合

コロナ禍で学校での学習には多くの課題があり、それに伴い先生方の負担も多くなっているのが現状です。しかし、そんな中、先生方は何とか子どもたちが楽しく意欲の持てる教育をと、日々工夫され、努力されていると感じています。保護者に対しても、HPなどを通じて、行事の様子などを動画で紹介したり、時にはライブ発信するなど、学校の様子を伝えることで、学校と家庭の距離は縮めているように思います。タブレットの導入など、新たな環境に子どもたちも、先生方も、そして、保護者もまだまだ慣れていないのが、現状であり、このような評価に繋がったのではないかと思います。

NO.5 市民協働でまちづくりをすすめていると感じている市民の割合

2021年度から始まった「地域デビューパーティー802」はZOOMによるオンラインでも参加できるハイブリッド方式で行われました。ZOOM参加の一人の方は車椅子生活の方でした。その方はだれの手も借りず、自由にこのイベントに参加できたことを大変喜ばれていました。そして、今まで知らなかった様々な市民活動を知ることができたことを、まるで自分が主役のように会場を回ることができたことを主催者に伝えてくださいました。コロナ禍だからこそその気づきでした。このように誰でもが自由に参加できるイベント作りを、市民活動を作り出すことで、市民協働でのまちづくりが進めばと思います。

NO.14 学童保育所待機児童数

待機児童が0は素晴らしいことと思います。しかし、私が知るところでしかありませんが、活動する部屋の狭さにはいささかびっくりします。コロナ感染予防の観点から「密」は当然ですが、コロナ禍でなくても、雨や熱さで校庭で遊べない時を考えると、子どもたちが自由に使えるスペースがもう少しあればと思います。確かに学校施設の活用と記されていますが、1学童当たりのスペースの見直しの必要性を感じます。

NO.18 生活保護家庭における中学校卒業者の進学率

高校進学は高校無償化や生業扶助により、経済的な要素はないと思いますが、進学後の問題が多いのではと考えます。ある都立校で3年経つとクラス一つがなくなっていると聞いたことがあります。負のサイクルを生まないためにも進学後の伴走があればとおもいます。(指標の変更を)

コロナ禍、母子家庭等貧困家庭の増加は著しく、学習が進まない、学習意欲がない子どもたちも多く、「学習支援教室」の存在はとても大切だと思います。また、引きこもりや不登校児の居場所としても、「学習支援教室」が身近に通える場所として増えることを願

います。

○ 政策軸2「しごとづくり」

NO.23 農業産出額

認定農業者制度を利用して、農業を「職」として、若者が選びやすい仕組みがあっても良いのではないかと思います。人とのコミュニケーションを苦手とする若者が増えています。職が長続きしなかったり、ひきこもりになったりと、八王子市内にも多くの方々をおられます。その方々に向けて農業の体験が民間での取り組みは始まっていますので、その補助や立ち上げの伴走が八王子の農業の新たな取り組みとなるのではと思います。

○ 政策軸3「まちづくり」

コロナの影響を諸に受ける項目が多く、停滞しても仕方ないと思いますが、その中で「まちゼミ」の参加者数が多いのにはびっくりです。確かに「私も参加したいなあ」と思うワークショップが数多くありました。これからも大いにいろいろなワークショップを展開して、個人商店の魅力を市民に伝えて欲しいと思います。

○ <参考>八王子市内には30に近い子ども食堂（地域食堂）や3つのフードバンクがあります。この数は全国に誇れる数と言えます。市民力は八王子の魅力ではないでしょうか。10月に東京たま未来メッセ（東京都立多摩産業交流センター）の開業や八王子医療刑務所跡地の開発に期待できます。ここに市民力をどのように活用するかがポイントになると思います。

○ まち・ひと・しごと創生総合戦略推進懇談会の主たる目的は、50年後に人口が6,000万人になるのを食い止める施策を考える事と理解したので、優先順位を決めて子育て世代へ投資する施策を中心に考えていくべきと発言したが、受け入れて頂けなかった。よって、今のKPIは評価する内容ではないので、コメントはしていない。

○ 市政世論調査をKPIとする場合、評価が難しい。市政世論調査に紐づく事業がわからないので、分析・評価は担当者の主観にならないか。

○ 令和4年度今後の取組状況において、地方創生の3つの視点「ヒューマン」「デジタル」「グリーン」の内、「デジタル」「グリーン」に関して、記載されているものがない。これらについては、産官学民等が連携して取り組んでいくべきものであるが、行政の今後の取組みに反映されていないのは、疑問に感じる。各部署のKPIや具体的な取組みを追記する必要があると考える。

- 私が属する民間企業の業績推移と同様、コロナの影響なしにはその分析を行うことができません。

これが2年続いたとなると、終息を待って評価軸を戻すというよりは、新たにそれを定める必要があると感じました。

いみじくも『今後、「八王子市まち・ひと・しごと創生総合戦略」が、現在策定中の「八王子未来デザイン 2040」と一体となる』との記載もあります。現状をイレギュラーではない基準点と捉えて、その名の通り未来をデザインする時期だと思いました。

- 実績値の分析評価シートについては、2年度と3年度を比較して大きく値が変化した項目について、市民の目線で印象を記載します。

「赤ちゃんふれあい事業を実施する中学校数」

私も中学生の親ですが、その世代に経験させることとして、将来的には少子化の抑制の礎になる取り組みとしますので、増加したことは喜ばしいです。

「学童保育所待機児童数」

漠然と多くの数をイメージしていました。

それがゼロに改善されているとは驚きました。

「路線バス・はちバスの乗車数」

これは単純に、コロナ禍の特徴である外出機会の減少によるものでしょうか。

交通事業者として、路線の維持が困難にならないレベルになってしまわないかが心配です。

「こども科学館の利用者数」

入館制限の緩和との記載もありました。

都心方面のそれとそんな素晴らしい施設なので、利用者大幅増はうれしい限りです。

- 評価全体について異議は無い。

- 「コロナの影響」列の評価を見ると、7年間の趨勢で実態として数値が低下しているものと、2年間のコロナの影響との区別が曖昧なものが見受けられる。例えば、自治会加入率は継続して低下しており、コロナ禍が無くても低下しただろうが、コロナの影響有と記載されている。この区別は内部職員はわかって記載していると思うが、コロナ影響の直接性と間接性は意識しておいて頂きたい。

- 全体としては、概ね順調に進捗していると評価します。

直接的に新型コロナウイルスの感染拡大の影響を受けた事業（人の行動制限に伴うものなど）について、実績が低迷することは、やむを得ないことと理解します。

他方、たとえば「4 町会・自治会加入率」についても、コロナの影響を挙げていますが、この実績値はコロナ禍以前から急落傾向が継続しており、目標値はもとより基準値との比較でも大きく減少しています。このようなものの実績評価を「コロナの影響」とするのは適切ではないと考えます。

コロナの影響を加味すべきは、真に直接的影響を確認できるものに限るべきです。そうしないと、上記のようなものについて、改善の努力の必要性が共通認識とならず、結果的に行政努力を怠ることになりかねません。

以上の視点で、分析・評価シートを見直すことを求めたいと思います。

- コロナ禍での実績評価として、十分であったと思います。

変異株により、出口が見えない現状ですが「八王子未来デザイン2040」がまとまったところでリセットをして、実績評価の目標値を定めればいいのではないのでしょうか。

2 その他

- 「(仮称) はちおうじ未来デザイン 2040」の策定に向けて、市民として参加させていただいています。地域・地域によって課題の違いや地域に対する意識の違いを感じさせられるものでした。八王子市の大きさ、広さを改めて感じました。コロナ禍でもあり、新たな生活様式、新たな学校教育と様々な変化を受け入れながら、「デジタル田園都市国家構想基本方針について」も共感できるものです。「はちおうじ未来デザイン 2040」が多様性を活かし、八王子で育つ子どもたちが 2040 年には「我がふるさと八王子」と胸を張れるようなものになって欲しいと願います。
- 来年度、新たな方針を指し、戦略を決定する予定と聞いています。出生率を上げる政策を最優先項目とすれば、八王子市でとるべき子育て環境が、自ずから示せると考える。
未来デザイン室では、地域づくりを進める推進会議が始まっているので、地域に住む子育て世代の方から多く意見を求めることも大事になると思います。
現在の委員は、本当に現場のことを知らない人が多いのではないのでしょうか。専門の知識を持っている方の考えも必要ですが、若い方の考えを受け入れて、新しい戦略を考えてほしい。今年度中に情報収集をして、来年度に活かしてください。
- 懇談会メンバーに選んでいただいて2年目となりますが、どちらも書面での開催のため、参画意識を保つことがなかなか難しい状況です。
もちろん、無理をする必要はありませんが、対面の開催される機会を心待ちにしております。
- 個別には工夫の余地があると思われる項目もございますが、コロナだけを理由にせず、またコロナを踏まえた分析・対応方を検討していることが伺えましたので、特段の意見はございません。
- 地方創生政策が、成長戦略であることは一貫しながらも、補助対象が人口から DX、社会実装に移行した。コロナ禍も3年目になる現在、2022年度の八王子市の今後の取組状況を見ると、曖昧な記述や前年踏襲型の記述が多いのが心配になる。
デジタル田園都市構想における市としての成長戦略の施策・事業が、「八王子未来デザイン 2040」と継続していると市民から受容されるように、準備を御願いたい。
- デジタル化を今後推進するためには、デジタル弱者の救済に十分な支援をしていただかなければならないと思います。すでに、高齢者などへの指導講習を実施していますが、より一層、興味を持っていただくよう、講習を受けた証を与えるなどとともに、インセンティブも

考えてはいかがでしょうか。また、様々な障害者にわずらわしさを無くすためにも証明書の期限更新などは市の窓口に出向かなくても、マイナンバーカードを取得していればアプリで証明が発行されるような仕組みの構築もデジタル社会では必要だと思います。

【質問・回答】

（質問）

コロナによる影響は、様々な分野に影響を及ぼしていることは、周知の事実。コロナ禍を前提とした上で、どのように工夫して事業を推進しているかを評価する必要があると考える。過去の参加者からの意見・指摘が、どのようには反映されているのか教えてほしい。

（回答）

懇談会でいただいたご意見等については、事務局でとりまとめのうえ、庁内で共有させていただくとともに、実績報告書に反映させております。

八王子市まち・ひと・しごと創生総合戦略は、令和4年度までを計画期間としています。数値目標や KPI は本市基本計画の目標値と一部合わせて進捗管理を行っていることもあり、計画期間内での数値目標等の変更は行っておりません。

しかし、数値目標等を達成するための個別取組につきましては、毎年度の予算編成の際に、実績報告書等の内容を踏まえ、制度や事業の構築に努めています。

（質問）

【しごとづくり】

- ・ No19 市内の産業活動が活発に行われていると感じている市民の割合について、33.3%の実績値が順調に推移している。と評価する根拠を教えてください。また、コロナによる影響「×」となっているが、「○」なのではないか。

（回答）

達成状況については、定量的に、「目標値の 60 %以上」と「基準値」のうち、高い方を上回る場合「○」としています。

また、コロナの影響については、ご指摘いただいた点を踏まえ「○」と整理させていただきます。